

## 2 面積・体積と行列式

2 つの平面ベクトル  $\mathbf{a} = \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \end{pmatrix}$ ,  $\mathbf{b} = \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \end{pmatrix}$  に対し,  $\mathbf{a}, \mathbf{b}$  の張る平行四辺形の「符号つき」面積  $S(\mathbf{a}, \mathbf{b})$  を次のように定める.

- $S(\mathbf{a}, \mathbf{b}) = \pm(\text{平行四辺形の面積})$ ,
- 正負の符号は  $\mathbf{a}, \mathbf{b}$  の位置関係 右手系をなすか左手系をなすか により決める<sup>1</sup>. 右手系なら +, 左手系なら - とする.

さて, 少し考えると, この符号つき面積は次のような性質をもつことが分かる:

- (1) 基本ベクトル  $\mathbf{e}_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix}$ ,  $\mathbf{e}_2 = \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \end{pmatrix}$  に対し,  $S(\mathbf{e}_1, \mathbf{e}_2) = 1$ .
- (2)  $S(\mathbf{a}, \mathbf{b}) = -S(\mathbf{b}, \mathbf{a})$ . 特に, 2 つの同じベクトルに対しては  $S(\mathbf{a}, \mathbf{a}) = 0$ .
- (3)  $S(\mathbf{a} + \mathbf{a}', \mathbf{b}) = S(\mathbf{a}, \mathbf{b}) + S(\mathbf{a}', \mathbf{b})$ ,  $S(\mathbf{a}, \mathbf{b} + \mathbf{b}') = S(\mathbf{a}, \mathbf{b}) + S(\mathbf{a}, \mathbf{b}')$ .
- (4) 任意の実数  $r$  に対し,  $S(r\mathbf{a}, \mathbf{b}) = rS(\mathbf{a}, \mathbf{b}) = S(\mathbf{a}, r\mathbf{b})$ .

上記の (2) のような性質は 反対称性 と呼ばれる (交代性, または歪対称性ということもある). また, (3)(4) を合わせて 2 重線形性 という. これらの性質を用いると,  $S(\mathbf{a}, \mathbf{b})$  は次のように計算することができる:

$$\begin{aligned} S(\mathbf{a}, \mathbf{b}) &= S(a_1\mathbf{e}_1 + a_2\mathbf{e}_2, \mathbf{b}) = a_1S(\mathbf{e}_1, \mathbf{b}) + a_2S(\mathbf{e}_2, \mathbf{b}) \\ &= a_1S(\mathbf{e}_1, b_1\mathbf{e}_1 + b_2\mathbf{e}_2) + a_2S(\mathbf{e}_2, b_1\mathbf{e}_1 + b_2\mathbf{e}_2) \\ &= a_1b_1 \underbrace{S(\mathbf{e}_1, \mathbf{e}_1)}_0 + a_1b_2 \underbrace{S(\mathbf{e}_1, \mathbf{e}_2)}_1 + a_2b_1 \underbrace{S(\mathbf{e}_2, \mathbf{e}_1)}_{-1} + a_2b_2 \underbrace{S(\mathbf{e}_2, \mathbf{e}_2)}_0 \\ &= a_1b_2 - b_1a_2. \end{aligned}$$

線形代数ではこの  $S(\mathbf{a}, \mathbf{b})$  を, 行列  $\begin{pmatrix} a_1 & b_1 \\ a_2 & b_2 \end{pmatrix}$  の 行列式 と呼び, 記号  $|\dots|$  や  $\det(\dots)$

を使って表す:

$$\begin{vmatrix} a_1 & b_1 \\ a_2 & b_2 \end{vmatrix} = \det \begin{pmatrix} a_1 & b_1 \\ a_2 & b_2 \end{pmatrix} = a_1b_2 - b_1a_2.$$

<sup>1</sup>右手の手の平を自分に向けて開き, 手を裏返さず指も交差させずに親指を  $\mathbf{a}$  の方向, 人差し指を  $\mathbf{b}$  の方向に向けることができたなら右手系 (親指と人差し指は 180 度未満なら開くことが可能で, 180 度以上は開くことが不可能であるとする), 左手でそれができるなら左手系ということになります. ただ, 一般的にはあまり用いられていない言葉の使い方なので, とりあえずこの授業だけのルールとします.

今度は、3つの空間ベクトル  $\mathbf{a} = \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \\ a_3 \end{pmatrix}$ ,  $\mathbf{b} = \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \\ b_3 \end{pmatrix}$ ,  $\mathbf{c} = \begin{pmatrix} c_1 \\ c_2 \\ c_3 \end{pmatrix}$  に対し、 $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c}$  の張る平行六面体の「符号つき」体積  $V(\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c})$  を次のように定める。

- $V(\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c}) = \pm(\text{平行六面体の体積})$ ,
- 正負の符号は  $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c}$  が右手系をなすなら +, 左手系なら - とする。

すると、平面の時より少し複雑になるが、同様に考えて、この符号つき体積は次のような性質をもつことが分かる：

- (1) 基本ベクトル  $\mathbf{e}_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$ ,  $\mathbf{e}_2 = \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}$ ,  $\mathbf{e}_3 = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}$  に対し、 $V(\mathbf{e}_1, \mathbf{e}_2, \mathbf{e}_3) = 1$ .
- (2)  $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c}$  のうちどこか 2 つを入れ替えると  $V(\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c})$  の符号は逆転する。例えば  $V(\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c}) = -V(\mathbf{b}, \mathbf{a}, \mathbf{c})$ 。特に、 $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c}$  のうちどれか 2 つが一致するなら  $V(\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c}) = 0$ 。
- (3)  $V(\mathbf{a} + \mathbf{a}', \mathbf{b}, \mathbf{c}) = V(\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c}) + V(\mathbf{a}', \mathbf{b}, \mathbf{c})$ ,  $V(\mathbf{a}, \mathbf{b} + \mathbf{b}', \mathbf{c}) = V(\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c}) + V(\mathbf{a}, \mathbf{b}', \mathbf{c})$ ,  $V(\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c} + \mathbf{c}') = V(\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c}) + V(\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c}')$ 。
- (4) 任意の実数  $r$  に対し、 $V(r\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c}) = V(\mathbf{a}, r\mathbf{b}, \mathbf{c}) = V(\mathbf{a}, \mathbf{b}, r\mathbf{c}) = rV(\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c})$ 。

前と同様、(2) は反対称性と呼ばれる。また、(3)(4) は合わせて 3重線形性 という。

演習 2.1 上記を用いて  $V(\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c})$  を前と同様に計算し、

$$V(\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c}) = a_1 b_2 c_3 + b_1 c_2 a_3 + c_1 a_2 b_3 - c_1 b_2 a_3 - b_1 a_2 c_3 - a_1 c_2 b_3$$

となることを示せ。

この  $V(\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c})$  を、行列  $\begin{pmatrix} a_1 & b_1 & c_1 \\ a_2 & b_2 & c_2 \\ a_3 & b_3 & c_3 \end{pmatrix}$  の 行列式 と呼び、やはり記号  $|\dots|$  や  $\det(\dots)$

を使って表す：

$$\begin{vmatrix} a_1 & b_1 & c_1 \\ a_2 & b_2 & c_2 \\ a_3 & b_3 & c_3 \end{vmatrix} = \det \begin{pmatrix} a_1 & b_1 & c_1 \\ a_2 & b_2 & c_2 \\ a_3 & b_3 & c_3 \end{pmatrix} = a_1 b_2 c_3 + b_1 c_2 a_3 + c_1 a_2 b_3 - c_1 b_2 a_3 - b_1 a_2 c_3 - a_1 c_2 b_3.$$